

第60回国立大学法人奈良女子大学経営協議会議事要録

日 時 平成30年7月25日（水）15時01分～16時32分
場 所 第一会議室（事務局管理棟3階）
出席者 今岡学長，藤原理事，小路田理事，小川理事，井深理事，
井岡委員，牧田委員，松本委員，村岡委員，山川委員
欠席者 尾池委員
列席者 酒居監事，福田監事，岩阪事務局次長／総務・企画課長，太田情報管理活用監
桑原国際課長，川村研究協力課長，西田財務課長，清水施設企画課長，
中窪学生生活課長，北村入試課長，矢野学術情報課長，
荒堀総務・企画課課長補佐，境総務・企画課総務係長
議 長 今岡学長

議事に先立ち，第59回経営協議会記録を確認。

審議事項

1. 地域の高等教育機関との連携について

学長から，資料1-1により県内の国立研究機関との連携による奈良の高等教育総合化による教育研究の学問の府の構想概要，奈良教育大学との連携に係る三つの柱の概要及び工学系教育課程のカリキュラム概要について，資料1-2により奈良教育大学との連携協議に関する合意書（案）について，資料1-3により平成30年度国立大学改革強化推進補助金について説明があった。その中で奈良教育大学との連携に関して補助金の申請を検討していたが，内閣府の本補助金に関する見解に鑑みた結果，申請を見送ることにした旨説明があり，委員に対して意見願いたいとの発言があった。

井岡委員からは，工学部新設に伴う既存学部の在り方について質問があり，学長から現時点では既存の学部の構成の変更は考えていないとの説明があった。また，時代の流れとして一法人化は避けられないと思うが，教育研究の部分は大事にして欲しい，女子に限定した工学教育は非常に興味深く，世界と渡り合うには奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校との連携は必須であると思う，附属学校園も含めた新たなモデルを考えることができれば，志願者は増えると思うので，「女子」というキーワードで良いものを考えてほしいとの意見があった。

牧田委員からは，構想のコンセプトは賛同しているので進めていただきたいと思うが，予算面が不安。奈良教育大学も伝統ある大学なので，女性限定の工学部構想に難色を示すのではないかと意見があった。

松本委員からは，基本的な方向性は賛成するが，具体的なイメージが見えないので不安を感じる，また，奈良の研究機関は発信の仕方が上手くないと感じているので，工学部に志願者を集めるために発信力を高める方法も検討して欲しいとの意見があった。

村岡委員からは，海外企業のトップと話をして痛感したのは，海外企業のトップは深い教養を身に付けている人が多く，ビジネスの交渉をするのに教養力は必要であるということ。また，日本企業の中間管理職層の課題解決能力が低いと感じており，学生には自分で考え自分のロジックでコミュニケーションを図れるようにしてもらいたい。奈良はリベラルアーツを提供できる数少ない素地があるところ，深みのある教養を身につけさせるといって今回の構想はベストな選択だと思うので，是非ともこの方向で進めてほしいとの意見があった。

山川委員からは，政府は国立大学の経営改革を求めており，その流れに乗るといって選

択肢もあるのではないかと、本補助金の申請を見送るのもつたいないと思う。法人統合によるスケールメリットを生かした経営改革をした後に、お互いが保有している資源を確認したうえで教育研究に係る改革をしたほうが、国や自治体の支援を得やすくなるのではないかと、戦略が逆であるとの意見があり、学長から、そのような進め方も考えたが、法制度の全容がはっきりしない状況下で法人統合を前提とした協議を進めることについて学内から不安の声も多く、ボトムアップで進めていこうと判断し、このような方向性になったとの説明があった。

また、山川委員から、三本柱のうち「工学系共同教育課程の設置」が他大学にはない特色のある取組であり、予算を獲得しやすいのではないかと、女子限定も特色になるとするとの意見があった。

以上の意見を踏まえ、審議した結果、奈良教育大学と連携に関する協議を進めることを承認し、役員会へ付議することとした。

2. その他
特になし。

報告事項

1. トランスジェンダー学生の受入れについて
小川理事から、資料2により、トランスジェンダー学生の受入れに関して海外及び国内の女子大学の動きについて説明があり、本学ではワーキンググループを作って検討中であるとの報告があった。
2. 平成31年度国立大学法人運営費交付金概算要求について
井深理事から、資料3により報告があった。
3. その他
特になし

以 上